平成２９年度協同農業普及事業外部第三者評価会議

普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

１　普及指導活動の体制について
（課内の分担、関係機関との連携、普及指導員の資質向上を含む）

新城市のトマト生産者の事例では、地域の特性を生かした農業に対して、一生懸命取り組む市の姿勢を感じる。非農家出身の新規就農者が就農当初、「収入はどのくらいか？」「トマトがうまく作れるか？」といった不安を持ち、普及指導員、研修先の先輩農家や地域の方の協力のおかげで農業が軌道に乗ったように、手厚いフォローは他に類を見ず、関係機関の連携が強固であることを感じた。
新城市のトマト生産者の事例では、行政、農協、地域住民との間を、普及指導員が中心になって連携をとり調整が十分に行われていた。地域を巻き込んだ普及指導活動が成功した事に感心した。
技術進歩が著しく、社会経済情勢が厳しくなる中で、高度なレベルでの普及指導活動が行われていると評価できる。他県をリードする役割を期待したい。そのために新規性、革新性を追求した試験研究機関や企業との連携、普及指導員相互の連携の先進的な在り方をさらに検討すべきである。
新規性あるいは革新性の高い普及課題に対しては、普及指導員が現場で柔軟な普及指導活動をするための研究や試験をする予算措置が必要である。
多くの情報を得るために、愛知県外への視察等をできるだけ多く行えるための時間と予算の確保が望まれる。こうした取組が、地味ではあるが「業務体力づくり」に極めて効果的である。
普及指導活動の体制については、特段の大きな問題・課題はないものと思われるが、普及指導員の指導活動やスキルアップのための時間確保が今後の大きな課題になるものと思う。これを解決するためには、普及指導員が作成する報告書等の書類の簡素化、共通化などによって事務負担を軽減することが必要である。
農林水産事務所農業改良普及課内に適正な人員配置がなされていると思われるが、見直す点がないか検討する必要がある。
他地域の動向や取組を意識する必要があり、全国を広く見るための研究、研修の機会を増やす必要がある。
普及指導活動の報告から、人と人、組織と組織をつなぐコーディネート力が求められていることが指摘できる。その能力を高めるための教育・教育体制を整備する必要がある。

これから普及指導に必要なスキルとして、技術指導だけでなく産地等の課題解決に向けたメニュー提案や枠組み作りなどが求められる。ケーススタディとして事例学習するとともに、産地キーマンとの交渉力、誘導力を身に着けるため、継続して研修などを開催し、スキルアップを図っていただきたい。
今回の発表事例等を見ても、成功事例については「仕組み」「体制」「支援」「連携」「協力」などネットワークの重要性を示唆するキーワードが続出している。もはや「単独」で何かを成し遂げることが難しい時代になったとも言える。こうした環境変化に対応していくためには「コミュニケーション」「プレゼンテーション」「ファシリテーション」の３つのスキルを持った職員の養成が求められるので、いち早く、職員の研修・育成体制をつくることを提言する。

２　普及指導活動の計画について（普及課題・対象の選定、目標設定等を含む）

県の農業構造、地域農業の課題に即した計画が立てられていると評価できる。
外部評価員等の提言を真摯にくみ取っていただき、方向性の見える普及指導活動の計画作りができてきたように思う。その点は大いに評価したい。今後は、今まで以上に、オール愛知への展開計画などを盛り込んだ、広い視野での計画作りなどのレベルアップを期待している。
発表２事例とも地域の問題を適切に捉えており計画・実行されている。
適切な計画で、関係機関と人、関係機関と地域とのネットワークが構築され、ネットワークを活かした取組と目標設定、課題設定ができていると感じる。
新しい課題や新規性にとらわれることなく、産地課題解決に取り組んでほしい。
耕畜連携は、お互いの信頼関係があればこそ成り立ち、安心・安全な体制が出来ていると感じた。
現場で課題となっている技術的な課題（品目毎の環境制御技術確立など）については、農業総合試験場と連携して技術開発、実証をすすめていただきたい。
新規就農者の研修受け入れ先の研修内容を把握しているのか。
農と食についての消費者の理解を目的とした活動をもっと充実させる必要がある。
現地調査で肉牛農家が述べた「生産者の顔が見える販売」、「地産地消」は、消費者にとっても一番望んでいる事である。
普及指導基本計画のなかでの課題の相互連関をもっと見易くすべきと思われる。分担した課題の成果が出ることだけに追われることなく、横のつながりから新たな展開が生まれるような工夫が必要である。

３　普及指導活動の経過、実績及び成果について

発表２事例の活動については高く評価できる内容である。
先進農家への視察、異業種交流などの勉強会の実施や市場及びエンドユーザーとの情報交換の実施を取り入れてはどうか。
田原市の耕畜連携の事例では、今後、天候や施策の影響の少ない露地農家との連携を試行中という事なので期待したい。
それぞれ課題に対して一定以上の成果を出していると認められる。
人手不足は何処も一緒で、いかに上手く連携をしてスムーズに運営して行くのかに尽きると思う。
新城市のトマト生産者の事例では、若者の新規就農者の参入により既存農家も刺激されて、出荷量もアップし、活性化につながっている。
どの事例を聞いても、意欲的で努力していることが成果に繋がっていると思う。
新城市のトマト生産者の事例では、就農２年目で単位収量が部会のトップになったとの説明を聞き驚いた。夫婦で経営され、互いに知恵を出し合える立場である事が良い。若さもあり、前向きに新しい事に挑戦する姿勢に力強さを感じた。今後の計画もきちんと立て、努力しているのが伝わった。頑張っていただきたい。
課題によって必要なタイムスパンが異なる。長期、中期、短期の課題を柔軟に設定すべきと思われる。
消費者向けの広報活動をもっと充実させるべき。
トマトの収穫の無い、１月～５月は、他の作目での収入を考えられると良いと思う。
新城地区の新規就農者に対しては、十分な指導が必要である。
関係機関、農業者等からの評価はどうか。
新規就農者が確保でき成果が上がっている。しかしながら規模拡大を目指すには、労働力不足がネックになり、踏み込めない状況にある。ロケーション的なマイナス要因を補う何かしらの魅力（付加価値）づくりと仕組みづくりが必要である。
ある地域のある課題についての成果は明らかにされているが、普及指導活動は成果に至るプロセスが重要である。普及指導活動のターゲットをどのように絞り、どのような環境をつくり、どのようにアプローチしたかが重要で、普及指導活動のノウハウを整理していく必要がある。そのためには、試行錯誤の足どりをもっと出してもよいといえる。
取り組んだ事業が該当する農業経営全体のなかでどのような意味があるのかを評価する部分（経営評価）をもっと出すべきといえる。
成果を一地域だけの成果とすることなく、愛知県全域に応用活用して広げていく活動を、今まで以上に組織的に強力に進めていくことが重要ではないかと思う。これからは、ひとつの「タネ」を見つけたら、それを「全面展開」して、より多くの成果に結びつけることで、「生産性」を高めることが必要である。

４　地域農業の振興に向けて普及事業が取り組むべき活動内容等の提案

労働環境や生活環境の整備。リーダー農家の育成による組織力の強化（部会の求心力向上）。女性が交流・学習・活躍できる組織（グループ）づくり。女性同士の結びつきから仲間意識、参加意識の向上をはかることなど今後の課題は多い。
グリーンツーリズム、農と食の文化に関する普及活動の拡充が必要といえる。
都市部の生活に対する地域農業の価値創造について斬新な（挑戦的な）取組を追求して欲しい。
３０年問題（米の生産調整廃止）の関係から地域農業をどのように方向づけて行くか、全国的動向を注視して行く必要がある。
「観光農園」「農業レストラン」「新商品開発」など、これからの新たな施策として６次産業化などの方向性を踏まえた「新たなモデルづくり」にも取り組んでいただき、愛知の農業の活性化をリードするような取組にも注力していただければと思う。
障害者など新しい労働雇用者の確保と労働環境（インフラ）の整備。成功事例のモデル化や地元就農の魅力ＰＲ、その取組の情報発信。地域の大学を巻き込んだ産官学の連携強化とＰＲ強化。普及指導員の養成。県外、海外での類似事例の視察、調査による情報収集とその活用。
若者と高齢者がタイアップして活動出来るとよい。
女性の農業への参画も少しずつ増えているように思うが、もっと活躍していただきたい。
施設園芸農家へＩＣＴ（アグリログ他）の利用を促してみてはどうか。
県内どの地域も、高齢化、後継者不足、雇用不足が問題となっている。対策をお願いしたい。
産地趨勢を捉えると、ＪＡ・行政が連携して「人、農地、技術」それぞれの対策を講じる必要がある。
農業改良普及課には個別課題への対応に加え、農政課と連携して地域課題の検討が進むように誘導してほしい。

５　評価会議について意見（普及事業全般含む）

評価会議で聞く個別の報告をもって県の普及事業の全体像をつかむことには難しさを感じるが、現況の断面を知ることができた。
他県の産地でも同じような課題を抱えているのか、そうであればどうアプローチしているのかを知ることができるとより意義深くなる。他県との情報交流をもっと活発に行ってほしい。
会場内でパネル展示を行うなど、毎回工夫を凝らしていただいている。ただ、検討会などにおいて参加者の方からの質問は殆どなく、「低調」である。予め質問を考えてきていただくように伝えておくなどして、内容の濃い会議になるような「仕掛け」もお願いしたい。
評価会議では、成功事例に限らず、失敗事例も含めた活動報告や議論が参加者からもっと活発に出るとよい。予め人選しておくのはどうか？
パネルは、２ヵ所しか説明を聞くことが出来なかったが、丁寧な応対でうれしく思った。
地元産の大麦を使用した麦茶は、一般販売のものと比べると色が濃いと説明があったが残念ながら現物がないので比較が出来なかった。

６　その他

もっと多くの普及指導員が情報交流できるような設定が必要と思われる。
農林水産事務所農業改良普及職員の意欲は、すごく感じられるが、今以上の取組を期待する。
農村生活アドバイザー２０周年記念誌作成にあたり、田原支部担当の普及指導員が会員全員の圃場へ足を運んでくれた。写真撮影をし、１人１人じっくりと意見を聞き、悩み相談にも乗ってくれた。普及指導員との距離も近くなり、労を惜しまない姿勢は高く評価できると思う。お互い成長しあえる関係になるといいと思う。